

1	審議会名	第17回 上田市行財政改革推進委員会
2	日時	平成22年1月25日(月) 午後2時30分から3時30分まで
3	会場	上田市役所本庁舎3階 第一応接室
4	出席者	小池会長、宮沢副会長、鬼頭委員、斉藤委員、櫻井委員、塩入委員、武井委員、南雲委員、西沢委員、三井委員、宮下委員 【欠席】高橋委員、田中委員、堀内委員、森田委員
6	市出席者	金子行政改革推進室長、西澤係長、星野主査、市川主査
7	公開・非公開等の別	公開
8	傍聴者	0人 記者 2人
9	会議概要作成年月日	平成22年1月27日

協議事項等

1 開 会 (行政改革推進室長)

2 議事

(1) 前回の会議録の確認

(事務局) 前回の会議では、提言書案について2回目の審議を行い、御意見、御質問をいただいた。会議録の内容について、訂正があれば事務局に申し出ていただきたい。訂正後、ホームページに掲載する。

(2) 提言書の確認

(会 長) 前回の審議を踏まえた提言書の変更案については、お手元の資料のとおりである。

また、前回の会議で出された地域教育事務所に関する意見については、付帯意見として追加したかどうか。

(委 員) 必要なことは含まれていると思う。

職員を減らされてしまうと、地域教育事務所としての機能が果たせるかどうか心配であるので、意見として申し上げた。

(委 員) 丸子の学校教育課を除き、地域教育事務所は公民館を拠点としている。

全ての手続を本庁に集約するのではなく、地域としての機能は強化すべきと考えるので、地域自治センターの中に地域教育事務所を配置し、ワンストップサービスの的に相談や手続ができるようにした方がいいのではないかと。

(委 員) この文章では、単に地域教育事務所の人数を増やすというふうに受け取られてしまい、前回の提言と整合性が図れないのでは。

むしろ、地域自治センターの機能を充実し、地域教育事務所の役割を持たせることを明記した方がいいのではないかと。

(委 員) 確かに、前回の提言と裏腹になってしまう可能性も考えたが、地域教育事務所の機能が縮小されることに対する懸念があったので、意見として申し上げた。

(委 員) 前回の提言では、合併前の組織がそのまま残っている地域教育事務所について、上田市全体の教育行政として考えた場合、司令塔がいくつもある状況はおかしいので、管理を一元化すべきではないかということで提言を行った。

今回の付帯意見は、地域教育事務所には地域の窓口としての機能もあるので、そうした機能は充実すべきではないかというもの。

機能の充実というのは、単純に人員を増やすというものではなく、地域自治センターに行けば、教育を初めとする各種手続や相談ができるような体制にすべきではないかということを用意している。

改革というのは、単純に減らしたり、リストラすることを目的とするものではない。

確かにそうした効果も期待するが、合併時の理念は分権型。

現在、地域教育事務所は地域自治センターとは別の場所にあるが、窓口を一緒にする形で機能を充実するのであれば、前回の提言と矛盾しないのではないか。

(委員) この付帯意見が、今後、教育委員会事務局体制の改革を行う上で、障害とならないか。地域の教育関係のサービスは、地域自治センターで実施すると明確に言った方がいい。

(会長) 提言を受けた後の対応について、事務局としてどう考えているか。

(事務局) 身近な手続等の窓口は各地域自治センターに残すというのが合併時の方針であるので、教育についても、身近な手続等については地域でできるようにという思いがある。

文面では、「地域の教育事務所の使命のひとつである、各地域における相談や各種手続等の受け皿としての機能を充実」と記載しているので、単なる人員増につながるものではないと考えている。

(委員) そういうことであれば、納得する。

(会長) この案文で提言させていただく。

(3) 今後の予定

(事務局) 今後のスケジュールについて説明

(委員) 行財政改革推進委員会として行った答申や提言について、目に見える形での効果はどうかということ聞かれることがある。

特に、行革について答申や提言をしているので、そうした経過や効果が市民に見えにくいのではないかと感じる。

簡単に形にできるものではないが、広報等で市民に公表することも必要ではないか。

(会長) 4月の第1回目の委員会において、集中改革プランの進捗状況の他に、答申や提言を行ったことによる対応について、事務局から報告してもらう。

3 提言書の提出

小池会長から市長に対して提言書を提出

(市長) ただいま、上田市行財政改革推進委員会として提言をいただいた。

これまで数多くの提言をいただいたが、行革については市民が等しく求めているものである。また、行政体のスリム化や効率化という点から数々の課題があることも理解しており、その中でもいくつかのことは実行できたが、皆様には先導的な役割を担っていただいている。

提言のいくつかのことについては、自分としても結論を出せていないが、現体制の中でいくつか思案する点がある。

また、文部科学省の川端大臣のインタビュー等を聞いても、私とミートする部分が多い。組織そのものは、常に時機に応じての見直しが必要であり、何よりも時代にマッチした中身にしていかなければならない。また、責任体制や命令系統がしっかりできるような体制にしなければならない。

そういういくつかの視点から見ると、今のように教育委員会と市長部局とに分かれてやっている中でいくつか疑問符がつくこともある。

先般、大阪市に行った折に話を聞いたが、大阪市では、スポーツ系と文化系については、教育委員会から市長部局に業務を移行している。当初はいろいろと摩擦もあったが、やはりやってみて良かったという感想も聞いた。

提言いただいた内容について、今の時点で結論を出すことはできないが、かなりの面で検討を要する、研究をしたいということがある。

こういう時機に、このような御提言をいただいたことに感謝し、御礼申し上げる。

今後の成長発展期に向けて、将来を見据えてどうするかということは一番大事なことです。

そういう視点で考えると、例えば、文化芸術については、現在、市内10箇所で開催交流文

化施設の整備に関して説明会を開催しているが、拠点施設の建設を含めた文化芸術について、市民になかなか伝わらない部分がある。

それは、文化芸術に対する、行政としてのこれまでの取組が不十分ではないかと感じるからである。

したがって、拠点施設の整備という一つの機会に、600億という全体予算規模の中で、文化芸術についてどの程度、力を入れて取組んでいくかということについて、もっと議論されてしかるべきであるが、残念ながらまだまだそういう域に届いていない。もっと積極的に取組むべき。

また、スポーツについては、文化とは違う面もあるが、行政としての役割を考えたときに、人間が生きていく上でかなり必須的な分野だと考えているので、教育委員会に任せおくだけでなく、我々市長部局としても心得て取組んでいく必要があると考えている。

今日の段階では、結論を出すことはできないが、今後とも、人も地域も元気なまちづくりを行うためにしっかりと方向性を示していきたいと考えている。

本日はどうもありがとうございました。

4 閉会

- * 会議概要は原則として公開します。会議終了後、1週間以内に行政改革推進室へ提出してください。
- * 非公開及び一部非公開としたものについては、その理由を記載してください。